

AV室展示

作家 松本清張没後30周年企画



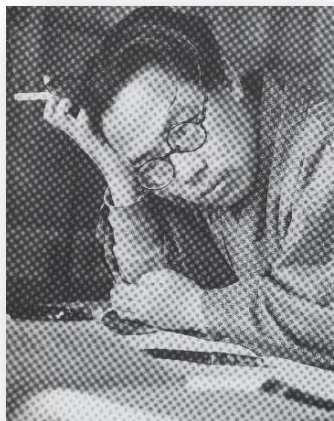
会場 愛知県図書館1階AV室
期間 2022年10月14日(金)から
2023年1月11日(水)まで

清張への旅



作家松本清張 没後30周年
AV 室企画展示

清張への旅



作家 松本清張について

自分の前半生は生活に追われ不遇であったと、松本清張氏は書いている。学業は優秀だったが、家庭の貧しさから進学を断念し、義務教育を終えると社会に出された。学歴差別には終始苦しめられ、それが後に反骨の清張文学を生み出す。作家活動は41歳からと遅いスタートながら、創作した作品数は他に類を見ないほど膨大で(約1千作品)、そのジャンルは推理小説、歴史小説、時代小説、純文学、ノンフィクション、評伝、評論、古代史論と多岐にわたる。口癖は「時間がない、時間がない」だった。書きたい作品の構想は山のようにあるのに、残された人生の時間には限りがあった。その旺盛な創作活動は、逝去する瞬間まで衰えることはなかった。

「わが力なきをあきらめしが されど草の葉で織る焔文様(ほむらもんよう)」
(松本清張『草の径(みち)』より)

今回の展示について

「しかし、地図を見るのは楽しい。地図と時刻表とを傍らに置いて、小説を考えているときに、私にはいちばんたのしい時である。」(『黒い手帖-図上旅行-』より)
旅を愛した作家松本清張氏作品には、様々な地域の情景が描かれストーリーを深めていく。そんな清張作品に登場する舞台を紹介します。

展示資料の一部を紹介

<DVD>

『点と線』『顔』『事故』『棲息分布』『火の記憶』『遠い接近』『依頼人』『一年半待て』『依頼人』『愛の断層』『たずね人』『虚飾の花園』

<CD>

『菊池寛の文学』(講演)、『西郷札』始めオーディオブック

<図書>

『地図で読む松本清張』北川清 帝国書院 2020
『清張鉄道 1万3500キロ』赤塚隆二 文藝春秋 2017
『「清張」を乗る』岡村直樹 交通新聞社 2019
北九州市立松本清張記念館展示図録
『清張と鉄道』『昭和史発掘への招待』『いつもカメラを携えて』
『松本清張と映画』『松本清張 砂の器展』

始め約170点

犬山城 (『薔薇描点』(1959年)より)

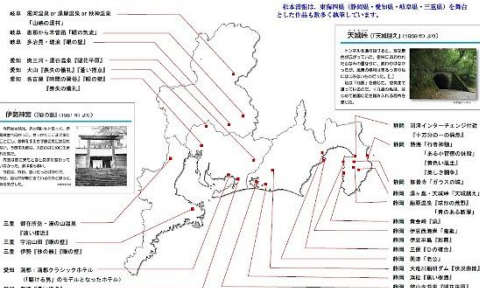
川は、蒼く澄んだ水を流している。鉄橋の両岸は新緑になっていて、川下りの遊覧船が浮かんでいた。川下を眺めると、なるほど左手の小高い山にかわいいくらい小さな城が見えた。その山の影が木曾川に落ちていた。



典子が、絵がきなどの写真で見ると、そっくりの景色であった。川の水面には夏草が映り、遠はひろい平野ががすんでいた。若い人が、しきりとこの景色をカメラに写していた。川辺につないだ遊覧船やボートにも、若い人が乗っていた。夏のたのしさが、もう終わろうとしている。

『薔薇描点』(1959年)より

松本清張作品地図～東海編～



EVENTS

関連上映会

上映作品『最後の自画像』(1977年NHKドラマ)

松本清張/原作(「駅路」), 向田邦子/脚本

開催日時/2022年11月11日(金)

(1回目)16:30~17:40

(2回目)18:00~19:10

入場定員/各回70人(先着順)

開催場所/愛知県図書館5階大会議室

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する場合があります。
(図書館ホームページでご確認ください。)

愛知県図書館

<交通案内>

【地下鉄】鶴舞線又は桜通線「丸の内」下車後、8番出口から徒歩5分

【市バス】幹名駅1系統・名駅14系統「愛知県図書館」下車、徒歩3分

【なごや観光ルートバス「メーグル」】「四間道」下車後、徒歩3分

※ 駐車場は有料です。台数に限りがありますので、公共交通機関での来館にご協力をお願いします。

